

## 研究結果報告書

### 古代大陸移民と上代詩歌の研究

所属： 南開大学 外国語学院 日本語文学科  
役職： 講師  
氏名： 王 凱

本研究は上代詩歌と古代大陸移民（帰化人・渡来人）との関係を調査し、その関連性を明らかにしようとするものである。1年間の研究調査を通じて以下の結論を出すに至った。

#### （１）記紀歌謡と古代大陸移民：

『日本書紀』の一部が古代大陸移民によって書かれたことが明らかになった今、もはや記紀歌謡乃至記紀の成立そのものが古代大陸移民抜きでは語ることが出来ない。こうした中、記紀に基づく日本古代の歴史の展開や記紀の構造において、古代大陸移民に関係する記紀歌謡が極めて重要な位置を占めている。自ら書き記す歴史において、古代大陸移民が自らの氏族の地位を高め、美化しようとする傾向も見受けられる。

#### （２）『万葉集』と古代大陸移民

4割近くの万葉歌人が古代大陸移民氏族出自であり、その作歌は個々が置かれた政治環境などと連動し、非常に豊富且つ多彩である。とりわけ、自らの氏族伝承と結び付け、当時の政治状況を自らの歌に反映している点は大変興味深い。しかし、いくら外来的要素が取り入れられていようが『万葉集』が「内」なる歌集であることに何の疑いの余地もない。

#### （３）『懷風藻』と古代大陸移民

『懷風藻』の歌人においても、『万葉集』とほぼ同じぐらいの割合で古代大陸移民詩人が占める。国際政治の色彩がより濃厚である漢詩の世界において、移民氏族詩人は彼らもつ漢詩漢文教養と国際政治感覚のバランスが相まって、古代東アジア国際交流の一端を担ってきた。「二重の身分」を持っているからこそ、東アジアの文学と政治の世界を障害なく往来することが出来たのであろう。

総じて言えば、古代大陸移民は、その氏族身分の特異性を活用し、東アジア国際政治と文学交流の表舞台に立ち、中国大陸や朝鮮半島諸国と倭国（日本）の交流促進に大いに貢献したのである。そして、その過程において、上代文学の形成にも大きな影響を及ぼしたものと推測されるのである。

上述の研究結果は、上代詩歌と古代大陸移民との関係論研究の入口に立ったばかりのものであるが、多少なりともこうした成果を上げることが出来たのは、偏に住友財団の助成によって遂行できた研究の賜物であり、ここで改めて感謝の意を表するものである。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 『懐風藻』と日本古代大陸移民・王凱・國學院大學文学部特別講義・2013年10月10日・國學院大學渋谷キャンパス若木タワー0502演習室
2. 『万葉集』と古代大陸移民・王凱・國學院大學文学部講演会・2013年10月17日・國學院大學渋谷キャンパス1号館1206教室
3. 日本古代大陸移民と上代詩歌・王凱・南開大学夏季学期特別講義・2014年7月12日・南開大学外国語学院111学術講演ホール(予定)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 『懐風藻』における移民氏族詩人考・王凱・『東亜文学与文化交流論集』・2014年10月頃(予定)
2. 「瑞雪兆豊年」在日起源流転考・王凱・『古代文明』・2014年10月頃(予定)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)